

# ムーユーチェンさんへのインタビューシート

## Q1. なぜ「Aomori Global Advance Project (AGAP)」に参加しようと決めたのですか？

このプロジェクトは、シンガポール国立大学の日本語の先生から紹介されました。先生ご自身が青森を訪れた経験があり、「空気がきれいで、自然が豊かで、食べ物もとても美味しい」とお話しされていて、クラスの友人たちも皆、興味を持つようになりました。

ちょうど私の期末試験がすべて終わった直後のタイミングだったため、スケジュール的にも無理がなく、ぜひ参加したいと思いました。もともと、日本語を実際の日本語環境で試す機会として、短期の現地交流プログラムにずっと憧れていたこともあり、このAGAPは私にとって理想的な機会でした。

## Q2. 実際にAGAPで訪れた際、むつ市にはどのような印象を持ちましたか？

最初はとても静かなまちだなと感じましたが、その静けさの中に人のあたたかさがありました。ホストファミリーの方々や市役所の皆さんが本当に親身で、地域全体が「受け入れてくれている」という安心感がありました。脇野沢の星空や宇曽利湖の静けさなど、自然も印象的でした。

## Q3. AGAPを経て、むつ市での勤務を決断された理由を教えてください。

アイルランドでの大学院修了後、私はケニアで半年間、国連人間居住計画 (UN-Habitat) のインターンとして都市計画や地域開発、ドナーリレーションに関わるデータ分析を行っていました。国際的な環境で多様な価値観に触れる一方で、「私は最終的にどこで、誰のために働きたいのか」という問いが常に心の中にありました。

そんな時、ふとよみがえったのが、AGAPでむつ市に滞在した時の記憶でした。あのとき、私はまだ将来に迷い、自分の居場所すら見失いかけていました。でも、むつ市の静けさ、人の温かさ、そして「わからなくても、焦らなくてもいい」と包み込んでくれた空気が、私を救ってくれたのです。

むつ市は、私にとって「自己実現のために戦う場所」ではなく、「ありのままの自分を受け入れてくれる場所」でした。そしてその居場所が、再び私の心を動かしました。大都市や国際機関でのキャリアも選べたかもしれませんが、私はあえて「地方」という選択肢を選びました。なぜなら、このまちに恩返ししたい思いがあるから。そして、国際的な経験やスキルを“むつ”というローカルに還元できるからこそ、今の私にとって最も意味のある挑戦だと思ったからです。

今回、下北ツーリズムで地域の魅力を国内外に発信できる機会をいただけたことは、自分にとって大きな転機です。「ここでなら、自分の力で恩返しができる」と心から思えたからこそ、迷いなくこの道を選びました。

## Q4. 任命を受けた今の気持ちを教えてください。

また、地域連携DMO「下北ツーリズム」で、具体的に取り組んでみたいことや挑戦してみたいプロジェクトはありますか？

とても光栄で、身の引き締まる思いです。一方で、自分の力が十分かどうかについて不安を感じているのも事実です。これからは観光地としての魅力だけでなく、「人とのつながり」や「地域のストーリー」を国内外に発信していきたいです。外国語でのPRや体験型観光の提案など、外から来た視点を活かしたいと考えています。

**Q5. むつ市での経験を通じて、今後ご自身が目指すビジョンやキャリアについて教えてください。**

地域と世界をつなぐ“橋渡し役”として、自分の言語力やデジタルスキルを活かし、持続可能な観光や国際交流の仕組みをつくっていきたいです。どこかに「帰ってきたい」と思える場所があることの大切さを、むつ市を通じて広げていけたらと思っています。

**Q6. AGAPプログラムに参加して「よかった」と感じた点を、ぜひ具体的にたくさん教えてください！**

AGAPに参加して最も印象に残っているのは、\*受け入れ側との「距離の近さ」です。形式的な視察や表面的な体験にとどまらず、地域の方々と心の通う交流ができたことが、本当に特別な経験でした。

たとえば、ホストファミリーの皆さんとは、まるで親戚のような距離感で過ごさせていただきました。日常の些細な会話や食卓でのひととき、何気なく「○○さんのホストファミリーが展望台に連れて行ってくれたらいいよ」と言っただけで、「じゃあ私たちも行こう！」とお風呂上がりでもすぐに車を出してくれたことは今でも鮮明に覚えています。その自然なやさしさに、何度も心を打たれました。

また、市役所や受け入れ側の皆さんも、一人ひとりの名前を覚えてくれていて、何かあればすぐ声をかけてくれるようなあたたかさがありました。大学生の短期プログラムとしては異例とも言えるほど、行政・地域・学生の関係がフラットで、対話の距離が本当に近かったと思います。

こうした「距離の近さ」があるからこそ、私たち参加者も真剣に地域と向き合い、単なる学びにとどまらず、自分の人生や価値観を見つめ直すきっかけを得られたのだと思います。一方的に“見せられる”のではなく、“一緒に過ごす”時間が多かったことが、AGAPの最大の魅力だと感じています。



